

# 背板の実積率について

河島 弘 椋沢 文夫

チップ用背板の層積と実績との関係をL材について検討したので参考までに報告する。

## 試験方法

### 1) 供試材

剥皮された原木を製材し、大割り時に生じた背板を「大」、小割り時に生じた背板（耳摺り材）を「小」と区分した。写真1に示す。樹種は、ナラ、カバ、ヤチダモである。

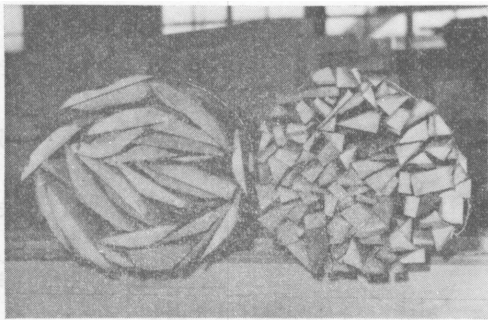


写真1. 形状区分, 左「大」右「小」

### 2) 層積の測定区分

#### イ 棚積みした場合

図に示すように、背板がくずれないように側に木枠を設けて、積んでいき、棚の上端がほぼ平坦になっているかを検定するために棒をのせて測定した。

求積法は次の式によった。

$$\text{層積} = \text{間口} \times \text{奥行} \times \text{高さ}$$

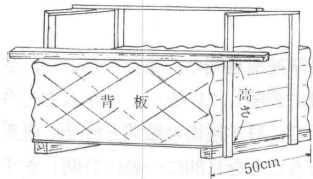


図. 棚積した場合の高さの測定

#### ロ 結束した場合

写真1, に示すごとく、束の直径が30cmになるように鉄線で結束した。従来N材では、結束した背板をチップ工場に売却する場合、長さを60cm (2尺) に統一し、直径を30cm (1尺) として、層積 $0.0556\text{m}^3$  (0.2石) と計算していた。そこでここでも求積法を

層積測定法別実積率

樹種	背板の形状	実積率 (実積/層積)	
		棚積みの場合	結束の場合
ナラ	大	0.57	0.54
	小	0.53	0.54
カバ	大	0.56	0.55
	小	0.60	0.55
ヤチダモ	大	0.52	0.54
	小	0.53	0.54
平均	大	0.55	0.54
	小	0.55	0.54

層積 = 直径の自乗 × 長さとして算出した。

### 3) 実績の測定

#### 写真2のごと

き水槽の中に結束した背板を浸漬して水嵩の増量分を算出した。浸漬して水面の高さを測定するに要した時間は約15~20秒であった。従って木質部に浸入すると考えられる水の量は特に考慮する必要はないものと思われる。

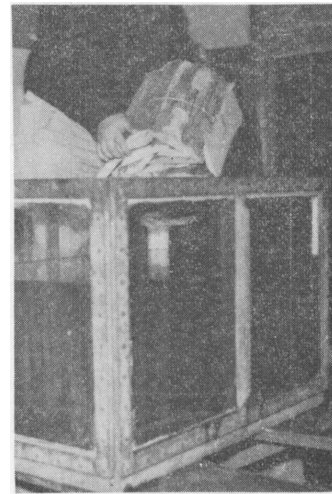


写真2. 実績の測定

## 試験結果

樹種、背板の「大」、「小」および層積の測定方法の差違による実績率を別表に示した。これらの結果から棚積みで層積を測定した場合は樹種、背板の「大」、「小」により、その値には、バラツキが見られたが、結束した場合は殆んどバラツキがなかった。

- 林産試 製材試験科 -